

株式会社タイナカ

すだれ屋が守り伝える近江葎よしと匠の技 天然素材で日本建築の「用」と「美」を創り出す。

数多くの和風名建築のために高級すだれを作ってきた東近江のタイナカ。
原料である近江葎の自然を守りながら、素材を見極める厳しい目と匠の技で、
創業から80年間、一流を知る人々から絶大な信頼を受けて仕事を続けてきた。

Sustainable Action

経営環境が大きく変化する現在、「企業の持続可能性」が注目されています。このコーナーでは、新分野進出、事業転換、海外進出などの戦略により事業を持続してきた企業を取り上げ、その経営のヒントを紹介します。

すだれ、茅葺き、建材製造 天然素材で3つの中心事業

— 主な事業を教えてください。 —

田井中 ■ 事業の柱は3つ。すだれの製造販売と茅葺き屋根の設計施工、葎や竹を使った建材「びわこ特産ボード」の製造です。3つの事業はどれも、琵琶湖特産の葎を中心に天然素材を原材料にしています。

— 3つの事業をどのように展開されてきたのですか？ —

田井中 ■ 私で3代目になりますが、それぞれの代で事業の力の入れ方は違っています。初代の祖父が80年前に近江葎のすだれ職人として独立し、東近江のこの地で創業した時には、すだれが中心でした。跡を継いだ2代目の父（田井中敏夫会長）は、

価値を知る人が指名する 名建築に欠かせぬ高級品

— タイナカのすだれはどんなところで使われていますか？ —

田井中 ■ 高級旅館や和風の店舗、寺社、個人の別邸、茶室など、国内はもとより海外を含め、京都迎賓館など伝統的な日本の名建築で当社の製品が広く採用されています。

— 御社のすだれの良さは？ —

田井中 ■ 材料の良さはどこにも負ける気がしません。当社では初代の頃からずっと、県内で最も品質の良い葎が成育する場所の地主と契約を結び、買い取っています。自社で材料の刈り取りから、選別、乾燥、加工まですべて行っているすだれ屋は他にはないはずです。刈り取った跡の野焼

きも行い、次の年に良質な葎が育つようにしています。

京都迎賓館の仕事では、父の代から10年間寝かせてあった葎を使いました。そのような特別な素材を使うご注文にも備えて、倉庫には祖父の代からの40年以上前に刈った葎まで保管しています。じつくり寝かせておくことで葎に独特の風合いが出てきます。

一目で産地を見分けるような目利きのお取引先もいて、素材に妥協はできません。また、茶室のこの窓には皮のついたままの葎を使うなどの決まり事もあり、茶室建築について調べたり、各地の和風建築を訪ね歩いて勉強を重ねています。

三代で葎いた歴史建築も 世代を超えて、任される

— 茅葺き屋根の仕事は現在もたくさんあるのですか？ —

— 御社が事業を継続してこられたのはなぜでしょう？ —

田井中 ■ 結局、真面目に、誠実に続けてきた結果だと思います。祖父も父も職人肌の仕事一途の真面目な性格でした。

真面目な仕事を頑固に 近江葎を守り、次世代へ

当社の従業員は茅葺きもすれば、すだれも作り、葎も刈るといいうように葎に関わるさまざまな技術を身につけており、そのことも強みになっています。

品質の良さをわかって、当社の製品が欲しいという方を買っていただきました。考えて代々商売をしてきました。真面目なすだれ作りを頑固に続けたいから、安さだけを競う市場からは距離を置いてきました。

— 今後の抱負を教えてください。 —

田井中 ■ 今までと同じように、原料の葎を大切にし、丁寧な仕事を続けていきたいと思います。私の代で創業100年を迎え、老舗の仲間入りをさせてもらえるでしょう。次の代のことを考えて、使いたくても我慢して保管している原料もあります。それは伝統の継承を図れば、これから何代も引き継いでいける商売だと思っています。そのため、琵琶湖の葎原を祖父の頃の状態まで戻すような努力もしていきます。年々、刈る人が減り、葎が伸び放題になっている場所の刈り取りなど、少しずつ手を入れて復元に取り組みしていきたいと考えています。



株式会社タイナカ

代表取締役社長 田井中敏己氏

Profile

- 本社/東近江市福堂町1426
- 創業/1933(昭和8)年
- 資本金/1,000万円
- 従業員数/19人
- 事業内容/すだれ製造販売、葎葺き・茅葺き設計施工、建築資材製造販売

<http://www.tainaka.co.jp/>



建物全体の印象をつくりだす茅葺き屋根



自然素材を手軽に現代建築に取り入れられる「びわこ特産ボード」



40年ほど前の工作機械も現役稼働している